

## 適切な表現

今回の学習のポイント

- ① 適切な表現とは？
- ② 目的に応じた表現で書こう

### 適切な表現とは

講師の金田一先生は、番組で「よい文章っていうのは、わかりやすい文章のことなんです。」とおっしゃっています。適切な表現とは、相手にとってわかりやすく、内容が的確に伝わる文章のことです。反対に、相手に伝わらない文章を悪文と言います。ここでは、悪文を修正し、わかりやすい文章を書くためのポイントを学習します。

#### ① 相手を知ること

相手にわかりやすく伝えるためには、まず「相手を知る」ことが必要です。同じ内容でも、子どもと大人に話す場合は言葉が大きく違います。友人でも同様です。話題にかかわる知識や情報の程度の違いで、説明する内容が違ってきます。何かを表現する場合には、初めに、相手の置かれた状況や立場、経験、知識などを考えることが大切です。また、相手に聞かれたり、求められたりしていることを理解することも同様です。それらをしっかりと意識して、言葉を選ぶようにしましょう。

#### ② 適切な言葉で表現する

「バズる」は、カレンさんが「使わないように気をつけている」と番組で話した言葉の一つです。「バズる」は、特定の間柄で使用される「仲間言葉」(第四回「意思を伝える」)で、適切な表現には向きません。広く、さまざまな立場の人々に伝わる言葉や表現を用いるようにしましょう。

#### 【避けたい語句・表現】

##### ● 俗語

##### ら抜き言葉

(×)「見れる」、「食べれる」 ○「見られる」、「食べられる」

##### い抜き言葉

(×)「してる」、「話してる」 ○「している」、「話している」

##### さ入れ言葉

(×)「やらさせていただきます」、「行かせていただきます」 ○「やらせていただきます」、「行かせていただきます」

国語監修・執筆

古宮才由里

●略語

(×)「バイト」、「コンビニ」、「朝練」 ○「アルバイト」、「コンビニエンスストア」、「早朝練習」

●仲間言葉

(×)「やばい」、「自分のに」、「なにげに」 ○「ひどい・素晴らしい」、「私としては」、「何気なく」

③長い文を短く区切る

一般的に、一文は四十字前後が読みやすいと言われています。長くても、六十字以内で収まるようにしましょう。主部と述部(第六回「文法」主語・述語)を短くしたり、接続詞「くて」、「く(だ)」が、「(第七回「文法」文の構造)」の部分で区切ったりすると短くなります。

【例】

主部 夜遅くまで起きていた私は、翌日前から見たかった映画を友達と観に行行ったが、映画の途中で寝てしまってショックがひどく、そのまましばらく動けなかった。



主部 私、夜遅くまで起きていた。主部 翌日友達と映画を観に行った。以前から観たかったものだった。しかし、映画の途中で寝てしまった。呆然とした。そのまましばらく動けなかった。

④「読点(、)」を適切に打ち、効果的に使う

「読点(、)」は、一文を読みやすくするために効果的な符号です。意味が切れる部分に用います。「読点(、)」をあまいに用いると文意が変わったり、多く用いると長文になったりするおそれがあります。注意しましょう。

【例】ここではきものをぬいでください。

- a) ここで、はきものをぬいでください。(ここで、履物を脱いでください。)
- b) ここでは、きものをぬいでください。(ここでは、着物を脱いでください。)

⑤語順を整えて、あまいな文を避ける

一文には、係り受け(修飾語・被修飾語)があります。このことを理解して、語順を整えることが大切です。意味のつながりの強い語句を、できるだけ近づけて書くようにしましょう。また、「主語(主部)」と「述語(主部)」にねじれが見られる文は意味が通じません。一文の「主語(主部)」と「述語(述部)」を切り取ってつないで読み、意味がきちんと通じることを確かめるようにしましょう。

【例】

- × 兄は、頻繁にアトリエを掃除する。  
頻繁(動詞)
- 兄は、アトリエを頻繁に掃除する。  
頻繁(動詞)
- (「副詞」は、「動詞」を修飾する。「動詞」の近くに置き直す。)
- × 私の夢は、父の会社を継いで経営者になります。  
名詞
- 私の夢は、父の会社を継いで経営者になることです。  
名詞
- (「主部」が「名詞」の場合は、「述部」も同じように「名詞」で表現する。)

目的に応じた表現で書くこと

文章には、「情緒的な文章」と「論理的な文章」があり、性質が異なります。「情緒的な文章」は文学的で、人間の感情や、ものの情趣が強く感じられる文章です。詩や随筆、小説などが当てはまります。それに対して、「論理的な文章」は説明的で、筋道立った思考や思想が読み取れる文章です。評論文、小論文などが当てはまります。例えば、小論文で表現の美しさばかりにこだわって文学的に書いたとしたら、内容のわかりにくい悪文になってしまいます。文章の特徴を理解し、目的に応じて表現することが大切です。

まとめ

「川端さんの本を読もう。もうこれしかない。『雪国』に感動したカレンさんが、番組でした総括です。的を射た内容です。「学ぶ」は、「真似る」と同じ語源を持ちます。優れたものを真似て、その形を覚えることが、学ぶことの基本です。まず読み、次に書き写しましょう。書くことで、着実に学習効果が上がります。言葉には、力があります。人を感動させ、人を動かす力です。その力は、時に芸術的な美しさであり、時に人を思う美しい心の表れであると考えます。言葉の力は、心の力。言葉を磨き、適切な表現を通して、あなたの思いを大切な誰かに、また、広く、世界に伝えていってほしいと思います。金田一先生は、番組で「思いやりのある言葉」、「挨拶」、「季節の言葉」が、日本語の美しさを表すものではないかとおっしゃっていました。そのような言葉を意識し、日本人らしい感性を大切にしながら、適切に表現していきたいものです。

